

# 日本学校教育相談学会

THE JAPANESE ASSOCIATION OF SCHOOL COUNSELING AND GUIDANCE

栃木県支部会報 2018.03.31

NO.28

- 第32回支部研究発表会 コメンテーター 毎澤 典子先生
- 第33回支部研究発表会 コメンテーター 築瀬のり子先生
- カウンセリング特別講座「アドラー心理学による勇気づけ」 岩井 俊憲先生
- 日本学校教育相談学会第28回中央研修レポート
- 精神医学特別講座「小児科医からみた子どもの心」 柳川 悦子先生
- とちぎ教育相談カフェの紹介
- 栃木県支部事務局からお知らせ

## ○ 第32回・第33回栃木県支部研究発表会レポート

平成29年10月7日(土)、11月18日(土)、栃木県教育会館2階会議室を会場に、第32回・第33回栃木県支部研究発表会が催されました。第32回では笠原万佐枝先生が特別支援学校の立場から、平峰孝二先生が学童保育の視点からそれぞれ事例を出して頂きました。第33回では、津川典子先生・青木眞琴先生が小学校の教諭の立場から、平野靖美先生が特別支援学校高等部の担任のかかわりとして事例を提出して頂きました。

コメンテーターには、第32回に毎澤典子先生(日本学校教育相談学会 スーパーバイザー) 第33回では築瀬のり子先生(矢板市立泉中学校校長 スーパーバイザー)をそれぞれお招きして、有意義な発表会が行われました。

### 第32回支部研究発表会

- \* 栃木県立足利特別支援学校 笠原万佐枝先生  
『重度重複障がい生徒と保護者のかかわり』
- \* 児童館 平峰孝二先生  
『放課後児童健全育成事業について(児童館)』

### 第33回支部研究発表会

- \* 下野市立国分寺小学校 津川典子先生  
『不登校気味の児童への対応について』
- \* 栃木県立岡本特別支援学校 平野靖美先生  
『発達障害を伴う精神疾患を持つ生徒へ、学校現場での医療、福祉のかかわりについて』
- \* 栃木私立第五小学校 青木眞琴先生  
『学級担任の個別支援 学級経営にいかすカウンセリングマインド』

## ○ カウンセリング特別講座「アドラー心理学による勇気づけ」

ヒューマン・ギルド代表 岩井 俊憲 先生

平成29年12月2日、教育会館大ホール、満席とはいきませんが、参加者の熱気あふれる中、岩井俊憲先生によるアドラー心理学の講座が開催されました。ペアによる「共同体感覚」の体験も交えながら、あっという間の時間が過ぎていきました。

以下、講座に参加されたお二人の方の感想です。

小柳 義一

今をときめく岩井先生の講演に参加した。先生はまさに講演のスペシャリスト。「皆様を眠らせません」の約束通り、参加者は最後まで、笑顔で、先生の世界に浸ることができた。

先生はまず、参加者に、自分の知らない人(異性)と、ペアになることを依頼した。そして、講演の途中、しばしばそのペアにワークを課し、そのペアとなった二人に信頼感を醸成していった。私も、素敵な人と楽しい時間を過ごすことができた。感謝！だ。まさに、講演のプロとしての本領発揮。

先生の講演で印象に残った言葉に、アドラー心理学の神髄である「共同体感覚」「勇気づけ」がある。さらに、「ほめる」ことより「勇気づける」ことが、よりすばらしい。「お願い」より「感謝」の方が、相手も私も幸せになる。と言う話にも心ひかれた。

先生の講演に参加して、人間に対する新たな視点を与えられた感じで、「感謝」だ。

## 加來裕康

Aは他県から来宇されて30年余。ベテランカウンセラーAとのインタビューを通して、安心感・信頼感・貢献感が自然に得られて、共同体感覚が少し養われた。

アドラー心理学の根底に流れているのは「共同体感覚の醸成」と「勇気づけ」である。ここで、相手の関心に関心を持つ「共感」は私のテーマである「相手の立場に立つ」ことと受止め、困難を克服する活力を与える「勇気づけ」はライフプランで長期的展望を持ち「目先のことに振り回されない」という私のテーマと重なる所を感じた。「勇気づけ」の実践に際しては、ヨイとこ探し・子どもに感謝する・行動のプロセス重視・失敗を活かす等であるが、私のテーマ「広い視野を持つこと」に添っているとも思った。それは失敗の受け止め方にもプラスになると考えている。

最後に、Aさんには成長や幸せを願いながら子どもと向き合っておられる想いが感じられ心温まるひと時であった。

## 中山芳美

講師の岩井先生は鹿沼市の出身ということでご存知の方も多く、たくさんの方が受講されました。はじめに先生から研修について「積極的に参加し仲間のお話に耳を傾けましょう」、というお話があり、さっそく二人組でのリレーション作りが始まりました。

配布された資料の一部をご紹介します。

リレーションづくり【共感・自己開示】の3つの目的

- ・安心感 「私は安心してこのグループに所属していただける」
- ・信頼感 「グループの仲間は信頼できる」
- ・貢献感 「私は進んでグループの役に立とう」



アドラー心理学の共同体感覚

人間知のアドラー心理学



人間理解に役立つ心理学

根底に流れるのは・・・勇気づけ  
共同体感覚の醸成

勇気づけとは・・・

- ・勇気(困難を克服する活力)を与えること
- (注)ほめることではなく、全人格的な活力を与えること



勇気づける人とは、困難を克服する活力を与える人

勇気づけの実践

- ①「ほめる」と「勇気づける」ことは違う
- ②ヨイこと探し(ヨイ出し)をしよう
- ③子どもに感謝しよう
- ④行動のプロセスを重視しよう
- ⑤失敗も勇気づけよう



「勇気づけ」についてワークで体験しながら、アドラー心理学について学ぶことができました。

(文責 松本直美)

## ○ 第28回中央研修会レポート

平成30年1月6日・7日、恒例の中央研修が東京代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターで開催されました。この研修には、現場の先生方など栃木県支部からも毎回複数の参加者がいらっしゃいます。会員なら誰でも参加でき、毎回東京開催で、各分野の第一人者から直接学べる貴重な機会です。まだ行ったことのない方も、興味のある内容があったら是非参加してみてください。

以下、1日目のプレ講座、2日目のコース別講座に参加された栃木県支部の方からレポートです。それぞれの内容は、講師の方の著作があるものと思われます。興味をもたれた場合は、当たってみてください。

### \* プレ講座①「学校で活かすパペットセラピー」(講師 足利短期大学 江川久美子先生)

レポーター 柴 一彌

江川先生ご自身制作のソックスを利用した「パペット」を参加者全員が手にして受講。「パペットセラピー」の効用は発話機能を持つ「パペット」を使い、心理療法、教育、医療、療育、知的能力障害の子育て、教育相談活動に役立つという多様な可能性を秘めていることが特徴です。非言語コミュニケーション、言語コミュニケーションの両方の効果が得られ、感情の表出、孤独の解消、発言の安全弁、身代わりにもなるという新しいセラピーとして注目されています。童心に帰りおじさん声の「裏声」を駆使して楽しみました。

### \* プレ講座②「逆境に負けない力、心の回復力～レジリエンス～の育て方～」

(講師 郁文館夢学園スクールカウンセラー 日本ポジティブ教育協会理事 鈴木水季先生)

レポーター 望月 都

思春期以降の子どものうつ病予防に効果があるとして、英米ではレジリエンス教育が進められています。講師の鈴木先生は英国で開発されたプログラムを日本の生徒向けにローカライズし、多くの中高生に授業実践をされています。何があってもビクともしない「タフさ」より、つらい経験をへこんだり落ち込んだりしても気持ちを立て直せる「しなやかさ」(レジリエンス)を育てることが求められています。

レジリエンスを育てるためには、①ネガティブな泥沼から脱出する方法を身に付ける②心の筋肉を鍛えることが必要です。

レジリエンス教育について学び、今後の教育実践に生かしていこうと考えています。また、ワークを通して、私自身の捉え方のクセが分かったので、ネガティブ沼にはまらないように気をつけたいと思います。

### \* Aコース「学級経営力を高めるハプスタンス・トレーニング」

(講師 上越教育大学 高橋知己先生)

レポーター① 小川正人

学級経営力を高めるハプスタンス・トレーニングの講座に参加しました。人間は内発的動機付けが必要であるが、学級経営も他律的なものでなく、自立・協働・創造などの条件が必要となってくるということです。そのような学級集団を作るには、ハプスタンス・アプローチが必要になってきます。それは、以下の通りです。

- ・H(hear) : 聴く
- ・A(analysis) : 分析する
- ・P(application) : 適応する
- ・E(environment) : 環境を整える
- ・N(notion) : 意図(教師と生徒の共有)

レポーター② 原沢大生未

Aコースでは上越教育大学大学院の高橋知己先生から、「学級経営力を高めるハプスタンス・トレーニング」と題し、学級集団育成の着眼点と方法をご教示いただきました。

「自立・協働・創造」を基本とするこれからの学級集団は、子どもが自分の意志で行動していること、子どもが自分の成果を確認できること、子どもが自分と他者との関係を結んでいることを土台に据えるというお話には、大いに学ぶところがありました。集団育成の方法としては、子どもへの傾聴(hear)・課題の分析(analysis)・子どもの資源の活用(application)・環境調整(environment)・子どもとの思いの共有(notion)を大事にすることをご教示いただきました。頭文字等をつないでハプンとは、言い得て妙と思いました。

## \* Cコース 「虐待と愛着障害の理解と対応」 (講師 大正大学 玉井邦夫先生)

レポーター 佐藤幹雄

このCコースの講座は私に実におおくの知見を与えてくれたように思います。今まで愛着と発達障害については多量にも学習してきたつもりでしたが、現実の家族の中でどのようなボタンの掛け違いが多く発生し、それが基で虐待につながっているのか大変良く理解できました。虐待については、実は何も知らなかったに等しいと愕然とさせられました。さらに愛着と虐待と発達障害の密接な関係性にもしっかりと目を見開かされたように思います。

何よりも大きなことは虐待問題を抱える家族・学校にどのような支援ができるかです。SCとして学校システムを支援しながら子どもをどのように支援し、家族との信頼関係を構築しつつ家族をどのように支援していくのか(予防という観点を含めて)、多くの示唆を得たと実感できました。これからの臨床に役立つ非常に有効な講座であったと断言できる内容でした。

## \* Eコース 「感覚統合の考え方を学校教育に活かすために」

(講師 よこはま港南地域療育センター作業療法士 松本政悦先生)

レポーター① 柴 一彌

講師ご自身が注意欠陥症(ADD)を抱えていらっしゃるご自身を自己開示。

以下は自閉症スペクトラム症の子ども自身の重要なメッセージ。言い換えると大人から見た「こうあってほしい」メッセージです。

- ・自分の苦手さを自覚している
- ・自分に役立つ「支援」を自分で言える。
- ・自分は価値ある個人であることを表明できる

心打たれるメッセージだと思いませんか。

レポーター② 小玉葉子

学校教育の場で「感覚統合」はまだまだ聞きなれない言葉ですが、発達障害、特にLDの子を理解しようとする研修で、最近よく耳にするようになりました。今回は、発達性協調運動障害、いわゆる「不器用」な子が抱えている困難を理解したいと考え、この研修に参加しました。

学習やコミュニケーションをする際、健常児が意識しないで(意識下)でやっている事、例えば、じっとして姿勢を保つ、不要な刺激を遮断する、相手の表情を読むなどが、発達障害の子は強く意識しないとできない。つまりそこにエネルギーを多く使ってしまうので、本来の学習や会話などがおろそかになるというメカニズムの説明は理解しやすく、その疑似体験を通して、子どもの大変さを少し共有できた気がしています。この理解が学校でもっと深まれば、不器用な子に対する優しさが広まるだろうと思います。

(文責 松本直美)

## ○ 精神医学講座「小児科医からみた子どもの心 ～発達特性を考慮して～」

柳川小児科副院長 柳川悦子 先生

平成30年2月3日に「小児科医からみた子どもの心～発達特性を考慮して」と題して柳川小児科医院副院長の柳川悦子先生からの講話がありました。

先生は、小児の診察や自身の子育ての中からの対応を織り交ぜながら「子どもの心の病気(心身症・ひどい癖・行動上の問題・精神症状・発達障害)」について話され、それぞれの特性から起こる学校や家庭で起こる問題とその対応について説明されました。

後半には「いじめ」「不登校」「小児うつ」「愛着障がい」などにも触れ、教師や保護者への対応について様々な角度からの示唆を得ることができました。

(文責 池田清恵)

「カラフルライフ」に向けて

柳川悦子先生から、子どもの心の病気、発達障害、不登校、いじめなどについて、具体的な事例やその支援の仕方についてのお話を伺いました。今学校の多くの教室で困惑している教師や、わが子の言動に悩んでいる親にとって、ヒント満載でした。

特にASDとADHDそれぞれ2人ずつの事例では、早期発見・早期対応が、その後の人生を大きく変えてしまうほど重要であることを痛感しました。また、周囲の大人たちによる、前向きな声掛けや関わりが、発達障害のある子ども

も達にとっても、セルフエスティームをあげ、意欲を高め「正の循環」をもたらすことも、心にとめておきたいことでした。

グレーゾーンならぬ『パステルゾーン』の子どもたちが、その子ならではの能力を十分発揮して『カラフルライフ』を生きていけるように、環境を整え、場を提供し、『障害』が目立たなくなるような支援をしていくことが大切だと、先生のお話を聞いて強く思いました。  
(文責 齋藤恵美子)

## ○ とちぎ教育相談カフェの紹介

「とちぎ教育相談カフェ」は、日本学校教育相談学会栃木県支部が主催ですが、公開形式で誰でも参加することができます。気軽に、飲み物を片手に、学校教育相談に関わるテーマについて、語り合い、学び合う場です。

### \* 第4回とちぎ教育相談カフェ

話題提供 馬場 友治 先生(連合教育会相談部相談員)

#### 「子どもの言い分と関わりについて」



第4回とちぎ教育相談カフェは、平成29年10月21日、とちぎ青少年センター研修室開催されました。台風21号が近づく中ということもあり、話題提供者も含めて7名のみの参加でしたが、教育相談カフェならではのメニューでよい学び合いができました。

「子どもの言い分と関わりについて」というテーマで、架空ではありますが家出の事例を中心に、ベースになる多様な視点からのお話をいただきながら、シナリオロールプレイングのワークも交え、参加者みんなが主体的に学び合うことができました。馬場先生は、長年、女子高の教育相談業務、保護司、相談部の相談員などで少年支援に携わってこられました。カウンセリングによる心理面のケア、

サポートにとどまらず、司法やケースワークなど多様な視点から子どもを理解し、支援していく手法について示唆をいただきました。一方で、参加者からは社会や保護者の変化とそれに伴う困難なケース、保護者を変えることの難しさ(保護者は変わらないのでそれを前提に幼い子どもでも支援しなければならない)などの話題が出されました。

私にとって馬場先生は、この広報紙編集や学会の活動などでご一緒する気さくな仲間のように思い込んでいるのですが、実はすごい方なのです。ご存じの方が多いでしょうが、多角的な視点を持ち、チームで、関係機関もうまく活用し、本当に教育相談の総合力を駆使して、数多くの子どもたちを救い、支援し、学校外も含めて数々の困難な事例に立ち向かってきたのです。講師としてお話を伺うと、カウンセリング領域にとどまらず、そうした実践、経験に裏打ちされた知見を得られます。皆さんも、機会があったらぜひ馬場先生から学んでください。馬場先生は、相談学会やカウンセリング学会の研修会などの多くに、カメラを抱えて顔を出しています。これは馬場先生に聞くしかないと思ったら、相談してみてください。

(文責 松本直美)



### \* 第5回とちぎ教育相談カフェ

話題提供 平峰 孝二 先生(児童館長)

#### 「小学校および家庭ならびに学童保育の実際」



平成30年2月24日(土)、第5回目の「とちぎ教育相談カフェ」が栃木青少年センター2階で開催されました。

平峰先生は10月の支部研究発表会にも、児童館の事例を検討されていますが、今回は児童館の他に、学童保育館、母親クラブも含めて、仕組みや役割について動画を交えつつ詳細に分かりやすく報告されました。

厚生労働省所轄の児童厚生施設を運営する上で、「児童福祉法」や「子ども子育て支援法」の法律は切り離せず、学校教育法、民法が垣根を越えて入り交じります。

児童は現在50名前後で、児童館では毎日3時以降に学童が来て7時まで、土曜日は希望があれば預かるそうです。学童は小学校で緊張していた分、放課後息抜きをするかのように時に元気よく行動します。ケガをせず、いじめを起こさせないことをモットーに、小学校や家庭と連携し、多くの要因から起こる子どもの問題に支援員さんと一緒に取り組む内容を伺うことができました。

(文責 馬場友治)

## ○ 栃木県支部事務局からのお知らせ

### 〈平成30年度 事業計画(案)〉

開催期日	事業名	会場	備考
6月 2日(土) 総会 13:00~ 講演 13:30~	【第29回総会 およびカウンセリング特別講座Ⅰ】 講演「人権として“LGBT”を考える」 講師 長 香織 先生	栃木県教育会館 大ホール	宇都宮大学教育学部 准教授
8月3日(金) ~8月5日(日)	【日本学校教育相談学会第30回総会・研究大会】 大会テーマ 「学校教育相談30年の歩み —その未来を展望する—」 【第19回夏季ワークショップ】	昭和女子大学	参加申し込み インターネットか FAX・郵送で
10月 6日(土) 13:30~16:00	【第34回支部研究発表】 コメンテーター 伊澤 裕 先生	栃木県教育会館2F	発表者を募集して います。
11月25日(日) 13:30~16:00	【第35回支部研究発表】 コメンテーター 築瀬 のり子 先生	栃木県教育会館2F	
12月 2日(土) 13:30~16:00	【カウンセリング特別講座Ⅱ・合同研修会】 講演「解決志向で考えよう～リソース探しから始める 希望のカウンセリング～」 講師 佐藤 節子 先生	栃木県教育会館 大ホール	山形大学大学院教育 実践研究科教授
H31年1月12日 (土) ~13日(日)	【日本学校教育相談学会・中央研修会】 未 定	オリンピック記念 青少年センター	
2月 3日(土) 13:30~16:00	【精神医学特別講座・合同研修会】 講演「がまん脳は褒め育てる—子育て・発達支援—」 講師 門田 行史 先生	栃木県教育会館 大ホール	国際医療福祉大学病 院小児科部長・准教 授

### ➤ ニュースレターN029 N030発行

\* 教育相談基礎講座 7月28日、7月29日・・・詳しくは別紙

\* とちぎ教育相談カフェ

第1回 7月14日(土)

第2回 10月20日(土)予定

※会員の皆様へのメール配信を準備しております。受信可能なアドレスを事務局までお知らせください。

※会費納入の時期となりました。今年度もよろしくお願ひします。

日本学校教育相談学会栃木県支部

〒320-0066 宇都宮市駒生 1-1-6

教育会館内 栃木県連合教育会相談部

日本学校教育相談学会栃木県支部事務局（中山芳美・高松千恵子）

TEL 028-621-7274 FAX 028-627-5682

E-Mail : [soudan@tochigi-rk.jp](mailto:soudan@tochigi-rk.jp)

ホームページ : <http://t-soudan.sakura.ne.jp/index.html>

(会員の部屋パスワード tb-jascg3123)

発行責任者 柴 一彌

広報担当者 馬場友治・佐藤幹雄・松本直美